

令和元年10月21日

報 告 書

江田島市議会議長 林 久光 様

令和元年度議会報告会 1班

江田島市議会議員 林 久光 (班長)  
江田島市議会議員 平川 博之 (副班長)  
江田島市議会議員 山本 一也  
江田島市議会議員 登地 靖徳  
江田島市議会議員 胡子 雅信  
江田島市議会議員 花野 伸二  
江田島市議会議員 岡野 数正  
江田島市議会議員 重長 英司  
江田島市議会議員 角増 正裕

議会報告会に出席しましたので、次のとおり報告します。

1 日程 開催地及び人数

	開催日時	会場	参加人数
江田島地区	7月17日(水) 13:30~15:30	江田島市民センター 別館 4階大ホール	19人 男14人 女 5人
沖美地区	7月19日(金) 13:30~15:30	沖美市民センター 集会室	8人 男 3人 女 5人

2 役割(司会、報告者、受付、記録)

区 分	江田島地区	沖美地区
司 会	平川 博之	平川 博之
報 告 者	議会：胡子 雅信 総務：岡野 数正 文教：山本 一也 産建：花野 伸二	議会：胡子 雅信 総務：岡野 数正 文教：山本 一也 産建：花野 伸二
答 弁	全 員	全 員
受 付	登地 靖徳 角増 正裕	登地 靖徳 重長 英司
記 録	重長 英司	角増 正裕
タイムキーパー	事 務 局	

### 3 定例会の概要及び各委員会報告

下記の事項について報告した。

(1) 6月定例会の概要について

(2) 各常任委員会からの報告について

(総務常任委員会、文教厚生常任委員会、産業建設常任委員会)

### 4 質疑応答

【江田島地区】(参加者19人)

(議決の賛否について)

Q1 議決の時、賛成多数で可決の場合は、賛否の数を明示してください。

A1 このたびの議案は全て全員賛成です。市のホームページをご覧くださいれば数が分かります。

(小学校のプールについて)

Q2 スポーツ施設の計画的な改修とあるが、老朽化が進んでいる小学校のプールも入っていますか。

A2 小学校のプールも改修計画に含まれています。時期は未定ですが、決まりましたらご報告させていただきます。また、「市民全体が使えるように」という意見もあるので、一年中使えるように温水化も含めて、検討を進めて参ります。

(三高中学校について)

Q3 三高中学校存続についての陳情書が出ているが、能美中学校校舎の建て替えが終わったとき、地域の方々の同意のもと、三高中学校を廃校し、能美中学校に統合するという答申が出たはずですが、どうなっていますか。

A3 三高中学校を能美中学校に統合することについて、教育委員会からの地元説明が不十分で納得できないため、地元住民より江田島市議会に陳情書が提出されました。これを受け、文教厚生常任委員会では、まずは、子どもたちのことを中心に考え、今後についてしっかり話し合いをしていくように執行部に要望しました。

(議会報告会について)

Q4 今回の説明会はなぜ6月定例会に限ったものなのでしょうか。

A4 今回は、6月定例会と一年間の各常任委員会の活動です。6月定例会の報告は8月1日発行の議会だよりに掲載されるため、今回の報告会の題材としました。

(汚染土壌処理事業について)

Q5 今回の定例会報告に含まれていない沖美町の汚染土壌の問題はどうなっているのか各委員会の年間報告をお願いします。

A 5 (株)フルサワの汚染土壌処理事業問題の経過について簡単に説明いたします。江田島市議会では、平成29年6月定例会で地域住民及び関係漁協との合意形成のもとに進めるように県に要請しました。しかしながら、県は平成31年3月に操業許可を出しました。これに対し、地元関係団体は許可処分取消訴訟提起し、現在、係争中ですので、江田島市議会としても今後の動向を十分注視してまいります。

【沖美地区】(参加者8人)

(江田島市職員の市外居住について)

Q 1 職員で市外居住者が多数いると聞いています。市全体からみたら大きな問題だと思う。江田島市の職員数とその内の市外居住者の数を教えてください。

A 1 江田島市の職員数は357人で、うち59人、16.5パーセントの職員が市外に住んでいます。

Q 2 この数字についてどう思われますか。

A 2 多いと思います。議会では執行部に対して何度も職員の市内居住について要望しております。その時には憲法で居住の自由が保障されているため、市としても強く言えない旨の回答を得ております。

Q 3 憲法で居住の自由が保障されていることは承知していますが、江田島市は島ですので防災の観点から問題があると思います。船で通う場合は、台風などの際に出勤できないことでもあります。

また、不思議なのはいったん就職して江田島市に住んでいた職員が市外居住となるケースです。子どもの中学受験で塾に行かせるためという話も聞きます。市民税が入らず交通費もかかります。それでもやはり憲法で守られているから仕方がないのでしょうか。

A3-1 災害時の出勤についてですが、突発的な地震などの災害は対応できませんが、台風など予測が可能な場合は職場に泊まるなどの対応をとっています。

次に、憲法で守られているからどうにもならないのかというご質問についてですが、議会としては諦めておりません。交通費のことも何度も執行部に指摘しております。議会報告会でご意見があったということも含め、今後も粘り強く執行部に訴えていきます。

A3-2 平成26年から議会報告会を実施していますが、毎回どの町でもご質問をいただいています。広島県内の他市町で採用試験の応募資格に、「原則として地元に住居する者であること」という規定を設けている事例もあります。これまでも全国的には定住枠や社会人枠を設けて市内居住者を増やす取組が増えていきます。こういった事例を参考に、職員の市内居住について我々も粘り強く要望していきます。

(地域おこし協力隊について)

Q 4 任期が終わった3名の地域おこし協力隊の活動分野を教えてください。また、その後の募集はどうなっていますか。

A 4 地域おこし協力隊は江田島市では3年前に第1期生を採用しました。この制度は最大3年の任期で国が経費を負担してくれます。今年3月に卒業した3名は、それぞれオリーブ栽培技術指導員、オリーブ普及員、移住促進支援員でした。3名全員が卒業後にそれぞれ起業され、引き続き江田島市で活動しています。

また、現在任期中の方が4名います。観光仕掛人が1名、ブランド請負人が1名、オリーブ栽培技術指導員が1名、国際交流支援員が1名です。

Q 5 地域おこし協力隊はそれぞれ自分がやりたいことに対して予算をつけてもらっていますか。

A 5 それぞれが必ず観光協会、農林水産課などに所属して知識を生かした仕事に従事しています。江田島市では地域おこし協力隊の任期が3年で終わっても引き続き江田島市に居住して活動できるよう市も支援しています。

(漁業振興について)

Q 6 漁業振興についてお伺いします。江田島市はカキ生産量日本一に復帰するなど、カキやちりめんの生産地であるが、地元スーパーで取り扱われていません。私は、地元スーパーで愛媛産のちりめんが売られているのを見て驚いています。生産地なのにカキ小屋などの飲食ができる場所も見当たりません。この点はどうしてですか。

A 6 江田島市の漁業振興としては、現在、稚魚の放流など栽培漁業、カキ筏が設置してある海底の清掃、放置船の撤去の3つに力を入れています。

カキやちりめんについては、地元業者では衛生面の問題もあり、東京などの消費地へ多くが出荷されているのが現状です。冷凍カキについて広島県内各地のカキ小屋との契約で多く出荷しています。

(レジャーについて)

Q 7 私は市外在住ですが、江田島市が好きでたびたび訪れています。最近釣りをしている人をあまり見ません。どうしてですか。

A 7 江田島市周辺で40年来海砂の採取が行われ、海岸に砂浜が少なくなっています。残念ながら昔と比べて魚は本当に獲れなくなっています。県や国にお願いして原状回復を図っていくよう努力を続けていきたいと思っています。

(交流人口について)

Q 8 江田島市においては、広島市や呉市などとの交流人口が減っている気がしています。実際はどうですか。

A 8 広島県の統計によると平成元年頃70万人程度いた交流人口が平成24年、

平成25年には、52万人程度に減っています。第2次総合計画で交流人口100万人を目標に掲げています。とても大きい数字ですが、平成29年には63万人まで戻っています。昨年は豪雨災害の影響で減少したと思われませんが、前述のように回復傾向は見られます。若者が各種イベントを開催する動きも見られます。外国人旅行客誘致も今後考えていかなければなりません。これらを積み上げて交流人口が増えるようにしていけたらと思っています。

(切串小学校大規模改修について)

Q9 切串小学校大規模改修に1億9,030万円(消費税込)で契約されているがその具体的内容を教えてください。

A9 切串小学校の校舎は昭和59年に落成した新耐震の建物です。新耐震の建物とはいえ、35年経過しています。今回の改修では、主にエレベーターの新設、トイレの洋式化、外壁の改修、屋上防水などを実施します。この契約とは別に空調設備などの機械工事や電気工事も計画されています。

Q10 切串小学校の児童数は何人か。他の学校でも建物が古くなれば改修工事をするということか。

A10 切串小学校の児童数は今年度56人です。江田島小学校との距離が国の示す基準より遠いことなどを勘案して存続の方針となり、改修工事が決まりました。それぞれの学校ごとに条件は異なりますので、個別に検討して決めることになると思います。

## 5 意見交換会《テーマ：市民と考える「人口減少対策」》

〈市民からのご意見〉

【江田島地区】(2グループで実施)

第1グループ(参加者8人)

〈産業・観光〉

- 交流人口を増やす。
- オリーブだけでなく県はレモンを推奨しているのでレモン栽培にも力を入れる。
- ビジネスアワードを設ける。

〈生活・環境〉

- 住んで良かった町にする。
- コミュニティの発信力をつける。
- 移住者対策を講じる。
- 選んでもらえる町にする。
- 若者が楽しめる場所を作る。

〈教育・文化〉

- 防衛大学を誘致する。
- 教育の多様化を図る。

〈基盤〉

- 江田島市で働く人は江田島市に住む。
- 本土との間に橋を架ける。トンネルでもよい。

第2グループ（参加者9人）

〈産業・観光〉

- 若者が働ける場所を増やす。
- 仕事場を増やし、人口の現状維持を図っていく。
- 海上自衛隊（海兵）見学者を増やし江田島市を知ってもらう。
- 外国人の労働条件についてしっかり把握して再び事件が起きないようにする。
- 空き家を活用して中国人を対象にした民宿が計画されている。外国人との交流がうまくいけばと期待している。

〈安全・安心〉

- 高齢者を守る対策（1 交通、2 災害）を進める。
- 安全・安心で誰でも住みやすいまちにする。
- 避難に役立つ10分間雨量の計測地点を増やして情報提供する体制を整備する。

〈生活・環境〉

- 合併後、未だに4町が一つになっていないため、交流を促進する。
- 人口3万人の維持を謳い合併したが、現状を考えると人口2万人を見据えて行政サービスの維持を考えていく必要がある。
- 市外からの通勤者が多い。若い人が定住しやすいまちにしていく。
- 市内から広島、呉へ十分通勤・通学が可能であることを情報発信する。
- 外国人労働者の住民との交流を促進する（地域住民はゴミ出しで困っている状況がある。）。

〈教育・文化〉

- 子どもを安心して育てられるまちにする。どのような努力が行われているか発信する。

〈福祉・保健〉

- 江田島市内に産婦人科・小児科といった医療機関を設ける。

### 〈基盤〉

- 災害復旧について、主要道路は工事が進んでいるが林道の復旧はいつになるか。遠回りして迂回する必要があるなど農業や日常生活に支障をきたしているため速やかに工事を実施する。

### 【沖美地区】（1グループで実施）

#### 第1グループ（参加者6人）

##### 〈産業・観光〉

- 田畑が荒廃している。耕作放棄地対策を考えてほしい。
- 市内にサービス業でなく製造業の職場を増やすべき。
- 6次産業化を進めて若い人の職場を増やす。
- 交流人口を増やすため、能美の新ホテルそばに地産地消市場を新設する。
- 交流人口を増やすため、オリーブファクトリー隣にカキ小屋やバーベキュー場を併設する地産地消市場をつくる。
- 交流人口を増やすため、国立青少年交流の家と提携する。
- 交流人口を増やすため、宮島との航路を新たに設ける。
- 交流人口を増やすため、農業、漁業、造船、サルベージなどの見学や体験の機会を設ける。
- 廃校となった学校などを宿泊施設にする。

##### 〈安全・安心〉

- 利用しやすい場所に災害時の避難場所を確保する。

##### 〈生活・環境〉

- イノシシの数が増えて農作物だけでなく、人的被害も懸念されるため、対策を強化する。
- 住みよい町とは、学校・病院・食品スーパー・遊び場があることだと思う。  
（代替案）
- 学校、病院、食品スーパー、遊び場の充実を図り、住みよい町にする。

##### 〈教育・文化〉

- 各町に1つは学校を残す（子どもがいなくなれば過疎化が進む。）。
- 児童・生徒に何か特典を与える（神石高原町は給食費を無料にしている。）。
- 子どもが集まる公園が少ない。大型遊具を設置した公園を整備する。

##### 〈福祉・保健〉

- 障がいがあるなど、特に配慮が必要な子どもの療育の場を設ける。

### 〈基盤〉

- なぜ人口が減ったか統計などの資料を整理して検証する必要がある。知恵を出して対策を考えるためにも現状把握する。
- 江田島に行こうと思わせる施設（ホテル以外）を設ける。
- 市民と市役所、警察などとの連携を密にする。
- 船便は通勤・通学の利便性を考えると遅い時間が必要。
- バスやオンデマンド交通などの公共交通について料金を安くする。

## 5 まとめ（所見）

- (1) 議会報告会で直近の定例会を取り上げるという方式への批判があった。市民が聞きたい内容が含まれていないとの指摘であった。次回に向け「議会報告会」とするかも含めて開催方法について検討する必要がある。
- (2) 今回の議会報告会から新たにワークショップ方式の意見交換会を実施し、今まで以上に多くの参加者からご意見をいただいた。
- (3) 広報には努めたが、参加人数は低調であった。今後、議会報告会や議会傍聴により多くの方に参加していただけるよう市議会として考えていきたい。